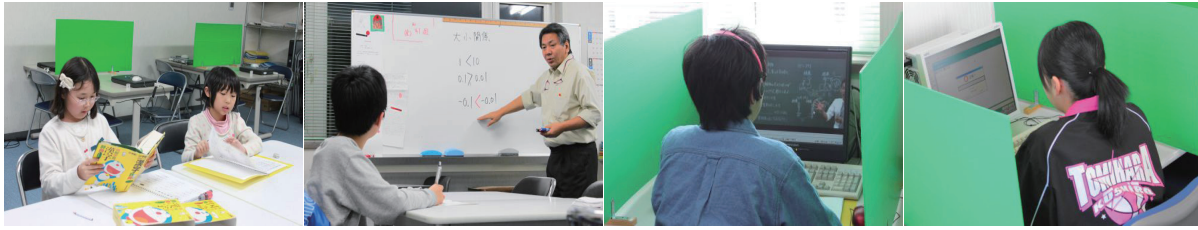


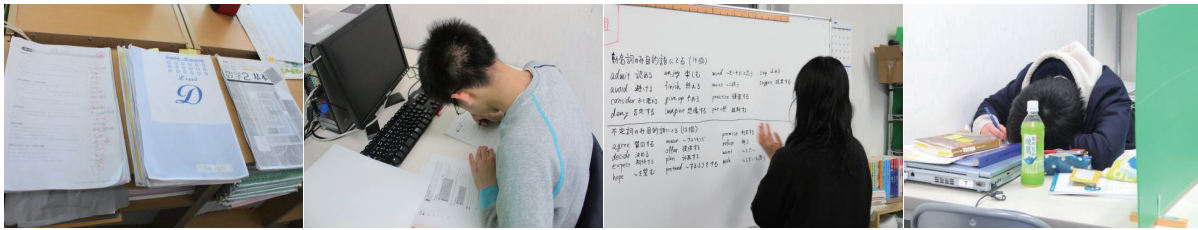
ホップ・ステップ



春期講座中の2/4と3/4の学力コンクール 各学年ともに前学年の全範囲がテストの範囲。結果をふまえて弱点克服を！



小学生は漢字をしっかりと！ 新中1冬弥君と1対1で数学。 新中3生は修学旅行や中体連などに振り回されないように！



中3生は毎日こんなに宿題！ 高専生になってがんばる雄也 今日の学習内容を確認する高校生と疲れてダウンする高校生



今年は、4月からちゃんと勉強のスタートを切った湖陵出身の江口君と栗野君。高校生のお手本になって！ キーボードを洗った後の組み立てをする6年生の洗春君 久々の山本・田中・木村さん、あつという間に高3生です。

「教育の動き！」
▼達成度テスト「基礎レベル」
年2〜3回 高1から受験
中央教育審議会（中教審） 高校教育部会は2月16日、創設を検討している新共通テスト（仮称）の「基礎レベル」を高校卒業程度認定試験（旧大検）と統合する方針を固めた。17日の部会に示す報告書案に盛り込む。高校1年生から年2〜3回受験できる参加希望型テストにする。同部会は3月末にも報告書をまとめる。新テストの基礎レベルは、高校での学習到達度を測るのが目的。大学のAO（アドミッションオフィス）入試の選抜で、学力を測る指標となると見込まれている。
このテストが実施されると、まさに大学受験は高校1年生から始まるということになります。現在の

AOや推薦入試は学校の定期テストの成績だけが判断材料になっていきますが、達成度テストという客観的なものが判断材料となるでしょう。きちんと勉強し、しっかりとした学力を持つ者が大学に入っていくということでしょう。現在の中1くらいからの導入でしようか。
推薦やAO入試で合格した生徒の学力が低く、大学教育についていくことが出来ないという現実の中から生まれたものです。
中学生にしても、高校生にしても自分の学力は自分の将来に大きく影響します。就職するにしても、大学に進学するにも学力の高いほうが有利なのは昔も今も変わりません。そして今は、積極的な行動力やコミュニケーション力も求められます。時間はどんどん過ぎていきます。今、自分がやるべきこと、

できることに責任を持って取り組むことが大切です。
●こんな仕事がある「養護教諭」●
◆どんな仕事
いわゆる「保健室の先生」です。かつて（いじめが盛んで、保健室に逃げ込む生徒がかなり居た頃）には、生徒の人気の職業でした。生徒は、そういう弱い生徒を助ける仕事として捉えて「なりたい職業」としていたようですが、それは一面だけで、学校全体の環境衛生の検査（健康診断の手配、学校内の水道水の水质検査、証明の照度検査、空気検査など）などという仕事も有り、かなり多岐にわたります。また、最近心が弱い生徒が多くなっていますが、そういう子への対処や、児童虐待にあつていたりする生徒の早期発見も重要な仕事になっています。普段は授業をおこなうことはありません。
◆なるには
養護教諭免許を取る必要があります。免許は一種と二種があります。一種は養護教諭養成課程のある大学で、二種免許は用語教員養成課程のある短大や専門学校で必要な単位を取得します。
北海道では、一種免許は次の二校で取得できますが、最近生徒数の減少から学校の統廃合が進み、就職口としては非常に狭められてきています。このため、きちんとした学力が無ければ養護教諭に限らず、教員採用試験には受かりません。左に掲げた北翔大学程度の学力ではかなり難しいと思われ、平均倍率は5〜10倍です。2012年の北海道は6倍程度でした。
◆二種免許が取れる短大は北海道にはありません。
◆一種免許が取れる北海道の大学
国立 北海道教育大学
私立 北翔大学（人間福祉学部）

●「親和力」●
教員対象の研修だけでなく、受験生・在校生の保護者向けの講演もよく依頼される。最近の子育てがテーマであっても「先行き不透明な時代にあつて、どのように子育てするか」といったように、これからの時代や社会を意識した話しをするようにしている。▼いま保護者は、子どもの将来が心配で仕方がない。そのため保護者の関心事はもっぱら「縦の成長」になる。成績の向上、難関大学に合格、一流企業へ入社、TOEIC・TOEFL何点以上獲得、様々な資格取得・・・。それらが生きていく上での有力な「武器」と考えるからだ。「武器」になることは私自身も否定しない。だが私のように会社を早期退職し、自分で事業を始めると「縦の成長」以上に、「横の成長」が大事だと感じている。▼ひと言で言うのは難しいが「横の成長」とはモラルや常識があること、支えてくれる人がいること、自分も親切にできること。フォローアップ、気配り・・・。目に見えない、生きる姿勢であり、必要となる資質だ。今年度の保護者向け講演会では「縦」ばかりでなく「横」の成長を意識して子育てしていただきたいと話そうと思う。実際、お子さんの人生を支えてくれる大きな「武器」になるはずだ。
（安田教育研究所代表 安田理）
日本経済新聞4月12日号より

31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	
						休塾					第一回漢字検定締め切り 富中修学旅行		休塾							休塾					GW休み	GW休み	GW休み	GW休み	GW休み	GW休み	GW休み

ゴールデンウィークの宿題が出ています。

■5月の予定■

携帯電話の持ち込み禁止
携帯電話の持込は禁止。連絡は塾の電話を使用して下さい。

「本・新聞」「親子の会話」学力のカギ・・・

環境不利でも工夫の余地 全国学力調査分析

全国学力調査の詳細な分析結果が28日公表され、親の年収や学歴の高さに子どもの学力が比例する傾向が明確になった。一方、不利な環境でも学力を伸ばすために、親や学校が工夫すべき要点も見つかった。かぎは、「読書」や「親子の会話」などだ。

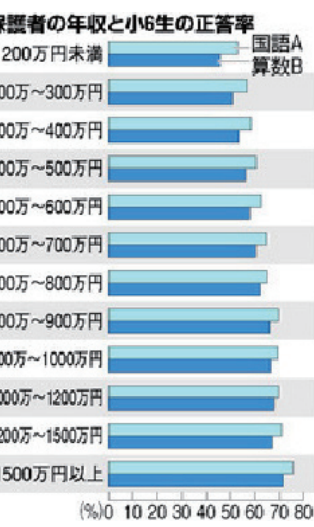
研究班は、年収と両親の学歴の高さから4グループに分けて分析。それによると、年収水準・学歴が高く、学校外の学習時間が長い子ほど学力が高かった。年収・学歴が最も低いグループで学校外学習が「1日3時間以上」という子の平均正答率が、年収・学歴が最も高く学校外学習を「全くしない」という子を下回る、という結果も出た。「単に学習時間を延ばす以外の工夫が必要」と研究班は指摘する。

一方、学力には「読書活動」の影響が強い、との結果も出た。「本や新聞を勧める」「一緒に図書館に行く」「小さいころに読み聞かせをした」などだ。「言語の価値を理解したり、新しいことを学んだりする力を習得している」とみる。勉強や社会の出来事について親子で話したり、規則正しい生活を整えたりする家庭ほど、「自ら学び、学校に楽しく行く傾向が強いことを示唆」とも指摘した。

年収・学歴が最も低いグループで、算数（数学）Bの成績上位25%に入る子は小6で17%、中3で12%いた。特徴を分析すると、「読書」「親との勉強に関する会話」「規則正しい生活」のほか、宿題をしっかりとしたり、親が学校行事に積極的に参加したりする傾向があったという。

学校は家庭の「格差」をどう抑えるか。小6算数Aの成績を基に分析すると、放課後の補充学習や習熟の遅い子に対する少人数指導を頻繁にしたり、小中が連携して指導をしたりする取り組みが効果的だった。

格差縮小の成果が表れた小中7校を調べると、子どもに自分の課題を意識させるきめ細かな宿題の指導▽教師同士で見合う授業研究▽地域独自の学力調査結果の活用▽基礎学力習得の徹底——などの特徴的な取り組みがみられたという。研究班代表の耳塚寛明・お茶の水大副学長は「社会経済的な学力格差の動向は国が定期的に監視する必要がある」と指摘した。（岡雄一郎）



(%)0 10 20 30 40 50 60 70 80

朝日新聞デジタル 4.17 より

読書を勧め、親子で図書館・・・

学力伸ばし、格差縮めるには 全国調査の分析から

2013年度の国の全国学力調査の詳細な分析から、親の年収や学歴が高いほど子どもの学力も高い傾向が明らかになった。一方、学力向上に効果的な親や学校による働きかけや、経済的に不利な環境で学力を伸ばす工夫の実例も示された。分析結果を詳報する。

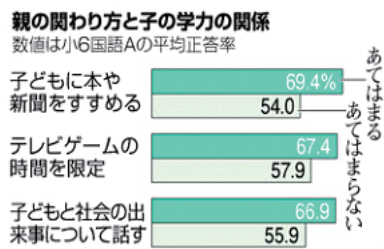
子どもの学力を伸ばすのに、「特に影響力が強い」とされたのは、本や新聞を読むことに関する行動だ。親の年収や学歴に関わらず、高い効果が示された。

学力との関連が高い順に例を挙げると、本や新聞を読むよう勧める▽一緒に図書館に行く▽小さいころ絵本の読み聞かせをした▽子どもと読んだ本の感想を話し合う——など。「言語の価値を理解したり、読む習慣を身につけたり、新しいことを学んだりする力を習得している」と研究班はみる。

親子の会話も比較的、学力への影響が大きい。効果のある話題は、社会の出来事やニュース▽勉強や成績のこと▽将来や進路のこと——など。次いで、テレビゲームで遊ぶ時間を制限するなど「生活習慣」も影響があった。

一方、学校に対する好感度や学習意欲には、親子の会話が最も効果的だった。「読書に関する行動」や「生活習慣」も比較的、効果が高い。「生活を整え、親子間の信頼関係をつくり、様々な助言をする家庭ほど、子どもが自分から勉強し、学校に楽しく行く傾向が強いことを示唆している」とする。

年収や学歴で親の働きかけ方は違うのか。研究班は家庭の年収と両親の学歴を基に調査対象を4分類した。年収と学歴が最も高いグループと最も低いグループ



あてはまる
あてはまらない

を比べると、子どもに高い学歴を希望▽英語や外国文化に触れるように意識▽良い成績へのこだわり▽本や新聞を勧める▽計画的に勉強するように促す——などの点で最も高いグループの多さが目立った。

■少人数指導や小中連携、効果的

親の年収や学歴に伴う学力格差はどうしたら縮められるか。

家庭の年収と両親の学歴による4分類で、最も低いとされたグループの子どもで全体の成績上位25%に入っていたのは小6で17%、中3で12%（算数・数学B）。その特徴をみると、規則正しい生活（朝食の習慣、ゲーム時間の制限など）▽読書に関して親が働きかける▽勉強について親子で話す▽家での学習習慣がある——などの点が、同じグループで成績下位の子どもより多くみられた。

親の年収・学歴による格差の縮小に効果的な学校の取り組みは何か。研究班は、小6算数Aの成績分布と学校の取り組みを基にした分析から、放課後の補充学習▽習熟の遅い子に対する少人数指導▽小学校と中学校の連携▽家庭学習の与え方に関する教員間の共通認識——の4点を挙げた。

研究班は実際に格差縮小の成果を出している小中計7校を調べた。全校が家庭学習の定着化を重視し、課題の提出を子どもに義務づけて教師がチェック。手が回らない担当教師を管理職がカバーする学校もあったという。基礎知識の習得を徹底し、ドリル学習を多用する点も全校共通だった。少人数指導や、複数教師のチームティーチングも活用されていた。7校中6校が同じ校区内で小中の連携に積極的で、9年間を通して系統的に連携する例があったという。

地域特性に応じた格差縮小策も分析。大卒者や管理職の比率を基にした指標で調査対象校を4分類し、学力向上に効果的な取り組みを調べた。大卒者・管理職の比率が最も高い地域以外では、親が学校・地域行事に積極的に参加したり、学校が親の要望に適切に対応したりする良好な関係づくりが効果的だった。

（岡雄一郎）

◆キーワード

<全国学力調査の分析> 小6と中3を対象に文部科学省が実施し、基礎知識中心のA問題と活用力をみるB問題で国語と算数（数学）の学力をみる。2013年度は、公立778校を抽出して保護者約4万人へのアンケートと子どもの学力調査結果などを分析。親の年収と学力の関係の小6の国語Aでみると、年収200万円未満の子の平均正答率が53%なのに対し、年収1500万円以上だと76%となるなど年収が上がるほど成績が良い傾向だった。

朝日新聞デジタル 3.29 より

釧路の場合は収入の問題よりも意識の低さが学力の低さに繋がっている。部活に時間と体力を使い、勉強に対する意欲はとて低く。高校受験が終わればほとんど勉強しない。3年後は何かかなと思っている。

中学校の、高校の早い段階で目標を設定し部活と両立し、確実な学力を身につけることが必要だ。意識の差が学力差になり、それが収入の差になっていく。

「主文 被告人兩名を懲役3年以上5年以下に処する。」

2001年4月29日、東京都世田谷区の東急田園都市線において、4人の少年が銀行員の男性に対し車内で足が当たったと口論の末、三軒茶屋駅のホームで4人がかりで暴行を加え、のちにくも膜下出血で死亡させるという事件が起きた。後日出頭した4人の内、主犯格となった2名が傷害致死罪に問われて逮捕され、事件の重大さから地方裁判所の公開法廷で審理が行われることとなった。裁判の中で2人は「申し訳なく思います」「自分という人間を根本から変えてゆきたい」などと反省の弁を述べた一方、事件自体は酔った被害者がからんできたことによる過剰防衛であると主張し、裁判中の淡々とした態度や発言から、真に事件に向き合い反省しているかどうか疑問を抱く態度を繰り返していた。

2002年2月19日、東京地裁において判決公判が行われ、少年2人に対して、懲役3～5年の不定期実刑が下された。判決理由を述べあげた後、山室恵裁判長が被告人2人に対し「唐突だが、君たちはさだまさしの『償い』という唄を聴いたことがあるだろうか」と切り出し、「この歌のせめて歌詞だけでも読めば、なぜ君たちの反省の弁が人の心を打たないか分かるだろう」と説諭を行った。

裁判官が具体的に唄の題名を述べて被告を論ずことは異例のことであり、『償い説諭』はマスコミに取り上げられ話題となった。

さだまさしは新聞社の取材に対して、「法律で心を裁くには限界がある。今回、実刑判決で決着がついたのではなく、心の部分の反省を促したのではないのでしょうか」とコメントしたうえで、「この歌の若者は命がけて謝罪したんです。人の命を奪ったことに対する誠実な謝罪こそ大切。裁判長はそのことを2人に訴えたかったのでは」と述べた。

GeoCities より